



アバン仙台 Jr. Youth News 2017年 11月号

第37回

見せるぞ集大成！！ 獲るぞ1部昇格！！



初々しかった1年生から・・・

東北大会出場を果たすチームへ



宮城県サッカーリーグ(MJリーグ)U15 2017宮城 1部昇格選考試合

いよいよです。1年間この一戦に向けてトレーニングしてきました。

思えば1年生の時、活動スタートの人数は20名と最多数。その後、それぞれの意思もあり一時は数人減りましたが、リーグ終盤に新たにメンバーが加わり現在の20名となりました。

U13リーグでは、ドリブルを主体として勝負しましたが、パスワークもできる器用な選手が多い。そこで今年度、彼らにジュニアユース再建を託し、新たな戦い方「4-3-3」でMJリーグ、クラブユースに挑戦しました。

本年度活動のスタート当初は2部降格の気持ちの落ち込みもあり、チームで大事にされるべき自主活動が疎かとなり、注意されていた時期もありました。また、自主勉強に加えてコーチからのサッカーの課題もあり、大変だったと思います。

また、昨年度から試み始めたスカウティングと話し合いも継続し少しずつチームづくりが進み、ついには東北大会出場という快挙を果たすまでに成長しました。ジュニア選手にもいい刺激となりました。感謝しています。

彼らが、アバンツアーレに前進する力をくれました。当日、応援に来られる皆さん、ご声援を宜しくお願いします。

- 日 時：平成29年11月3日(金・祝) 11時キックオフ
- 会 場：めぐみ野 Cコート (県サッカー場)
- 相 手：多賀城 FC

新人大会 結果から得ること

- 試合日時：平成29年10月1日(日)、10月28日(土)
- 試合会場：熊ヶ根コミュニティグラウンド
- 対戦相手：10月1日 VS DUO パーク、10月28日(土) VS 青葉FC
- 試合結果：アバンツアーレ 0 VS 6 DUOパーク
：アバンツアーレ 0 VS 3 青葉FC

クラブユース新人戦。連敗という結果について言い訳はできません。

ですが、この2試合の内容については収穫もあり、来年度のリーグ戦に向け強化していくべき点も再確認できました。

ただ、選手たちもクリアしていくべきだと感じた試合となり敗戦の要因はこういった部分なのか、以下に紹介していきます。

●一つ目。ファーストコントロールの場面、足元なのか少し前のスペースなのかという選択をする部分。コートを横に大きく使ってもゴールのある前を覗くパス、覗かせる受け方が少なかった。トレーニング内容が安定して表れていない部分です。マークを外す動きも含め強化していきます。

ゴールに向かったプレーは、ドリブルです。今のところ特定の選手ですが、個による突破、これは今後の武器。パスが絡めば面白くなると思います。

●二つ目。個人の球際へのチャレンジ、これは自分のマークとサポートを狙える位置取りをしつつ「インターセプト」、攻撃的な守備が少なかった。それにより、DFの裏にロングキックを放り込まれ、その後の対応の部分で、大体が相手選手と並んだ場面の判断、DFとGKのコミュニケーションの部分で失点。

ただ、この失点に関しては十分に修正可能な範囲ですが、これまでで修整できなかった敗因です。今後、強化試合の機会も増やし修正していきます。

また、コミュニケーションの部分で改善点を挙げるならば、選手間の関係性も要因の一つです。これは確実にクリアしなければなりません。

後述するミーティングで3年生からアドバイスを受けた部分も含め、チーム活動だけでなく、オフの時にもできる限り選手同士で過ごしなが、チーム強化のため取り組んでいきましょう。

平成30年度 ジュニアユース10期生募集

6年生のみなさん、こんにちは。ジュニアユース監督の畠山コーチです。全少などの活動が残るところですが、この度アバンツアーレ仙台ジュニアユースでは、来年度のジュニアユース候補生を募集します。

現在、アバンで活動する選手、あるいは他チームに所属するチーム選手が対象です。現在、アバンではクラブとして「文武両道」、「技術向上」に取り組んでおり、そして「考えて判断し、チャレンジすること」を大事に、来年度リーグ戦に向けてチームづくり、強化をしているところです。

コーチは「挑戦」できる選手であれば問題ないと考えています。選手それぞれの特徴が交ざり合いながら強く戦えること、そしてサッカーする喜びと成長を体感し、共に戦いましょう。

技術的な成長は急いではいけません。ただ、少しずつでもサッカーと生活の両面で成長すれば、きっとチームの力になることを信じて活動することを大事にしていきたいと思います。

そのために、コーチも全力で協力します。でも、まずは自分の行動が大事です。やってみることです。自分なりの習慣を見つけ、「自立」することでチーム力もアップします。そういった考えのもと活動しますので、ぜひ参加してみてください。

説明会・練習会の日程

【練習会】

- 日 時：平成29年12月2日(土) 14時～16時
- 会 場：東北朝鮮学校

【説明会】

- 日 時：平成29年12月3日(日) 18時～19時30分
- 会 場：柳市市民センター会議室

テクニカルレポート

2017カメイカップU15東北サッカー選抜大会が10月8日(土)・9日(日)2日間で開催されました。

同じ中学生年代の選抜を観ることのできる貴重な機会です。選手と観戦したのは、8日(土)の岩手県選抜と福島県選抜。そして秋田県選抜と宮城県選抜の試合です。今回はその試合観戦から技術的な部分についてお話ししたいと思います。

私が特に印象深く観戦したのは岩手県と福島県の試合。どちらも高さで縦方向への攻撃に自信のあるサッカーをします。ウォーミングアップを見る限り、岩手県の選手は基礎コントロールも練習しているように見え、試合序盤の選手たちのファーストコントロールからも感じました。

しかし、高さのある選手にすぐ蹴りこむ、勝ちに行くのは当然です。戦術的にも大事ですが、FWの選手もサイドの選手を向くことが多くなっていました。ゴールを向くプレーが少なかったように思います。

逆に福島県はその高さ、強さに對抗する守備陣の強化がされているのも感じたので、岩手県の選手の質の高い基礎コントロールを大事に中央から攻め入れたら攻撃が質高くゴールに向かえたように思います。

試合展開を観ても、岩手県攻勢で得点場面はありましたが、決定打にならず、決まらないまま相手ゴール周辺でのコントロールに焦りが出て、ミスが続きます。徐々に福島の粘り強い運動量が攻勢となります。

そして、福島がPKを勝ち取り先制。その後、岩手県がなんとか試合終了間際に同点弾を決めました。もっと攻勢になった試合序盤で、強さと基礎技術のあるFW、判断力と展開力のある選手を中心に試合を進めてもよいように感じました。ただ、これはコーチが岩手県出身だからより強く思ったのかもしれませんが(笑)。

今大会を観て非常に勉強になりましたし、アバンの取り組みについても自信を持ってました。今後の活動でも基礎コントロールへの探究、ゴールに向かう攻撃的なサッカーを強化していきたいと思っています。

選手たちの活躍を紹介

ジュニアユース選手のサッカー以外の活動を紹介します。

1つ目、朝鮮学校のグラウンド整備。最近、練習グラウンドとして使っていますが、整備前はなかなか使われていませんでした。

そこで、自分たちが使うだけでなく、学校に通う子供たちが遊んだり、サッカーの活動も盛んに行われる場所になるようにと話し取り組みました。

ただ、最近はなかなか整備に行けず、中里コーチや佐藤コーチが試合のできるグラウンドづくりを頑張って進めてくれています。

2つ目に畑作業。アバン事務所では、障がいのある方が自立した社会生活をしていくために、就労支援B型事業を利用し働いています。その一つとして高館地域でワイン用のぶどうと野菜づくりをしています。

今回は、その畑作業を体験することで、「モノづくり」、「考えて行動すること」や「コミュニケーション」を目的に草を刈り、ぶどうの成長に必要な支柱の基礎を埋め立てる作業をして過ごしました。

ある選手は才能を見せ、モノづくりに必要な「時間と手間」を体感し、ある選手は楽しんでいる姿も見られ、大変充実した活動となりました。

3つ目はチーム活動。ジュニアユースで月に1回行っている一ティングと学習をした時のことです。

その日は、アバン事務所での活動。活動後にはトイレや玄関掃除をするのが習慣です。ただ予定より手際よく掃除が終わり、考えた選手は、室内練習場のグラウンド整備を率先し取り組んでいました。

こういった「気づき」「判断」「行動」は今後も大事にしていきましょう。これからも選手の様々な活動を紹介していきます。



雨降りの中、雑草探り

ぶどう畑で手伝い



穴を掘っていたら!?



掘れたあ

3年生からアドバイス

ジュニアユースで毎月1回のチーム学習・チームミーティング。新人大大会後、試合結果やカメイカップ観戦から感じたことを話しました。

その際、3年生には今の新人チームの現状について、これがまず変わらなければとアドバイスをもらいました。

～ 佐藤 輝(ひかる) くんから ～



試合が上手くいっていないことの原因は仲間との間で微妙な空間を生み出してしまっていることだと感じます。

「〇〇だからいいや」など自分の力でやりきろうとせず、仲間が無条件に頼ってしまうことで、さらに仲間との距離が広がってしまい、悪循環になってると思います。

2年生には一番やる気を出すことをやって欲しいです。

僕がやる気を出す方法は、メル・ロビンスの「5秒の法則」を活用しています。どういうものかという、自分がやらなければいけないことをパッと考えた時、5秒以内に行動に移ってしまうのです。

人間は5秒以上考えた場合、勝手に脳がやらなくていい理由をつくってしまうので、その前に動いてしまうのです。

5秒の間はしっかりと理由をつくれないうのです。

例えば学校で提出物を忘れて先生に言わなければいけないとき、行動を実行するのにつらいのは5秒だけです。もしも行動をとらなかったら、モヤモヤが残るその何倍、何十倍と辛い時間が続きます。自分の行動で自分を辛くしているのです。人によってやる気の出し方は違いますが、自分はこの「5秒の法則」を使ってやる気を引き出しています。

早起きをする、部屋を片付けるなど、初歩的なものでも構いません。思い立ってすぐ行動するだけでも、かなり変わってくることでしょ。

～ 山形 悠仁(ゆうと) くんから ～



他人がやっていることに賛同して行動するのではなく、自分から賛同してもらえるような行動をした方がいい、ということです。

小学生のころ、何でも仲間の真似、後ろをついていくような自分だと、中学生になっても自分で考えて行動できないでいた。という自分の経験があるので、みんなには、主張しながら活動してほしいと思います。

～ 富山コーチから皆さんへ ～

これは、プロボクサーの村田諒太(むらたりのうた)選手が世界戦を控え、ある番組でのインタビューで話していたことです。

『子供はジャングルジムを平気で一段目二段目、三段四段と同じ作業で登る。高くなれば高くなるほど怖いはずなのに登る。怖いけれど挑戦する、行く勇気がある。大人は危機回避能力が高いだけ。危ないとわかるから。大人になるほど挑戦できなくなる。高みを目指せば目指すほど、新たな試みが怖くなる。恐れずチャレンジする。挑戦したいけれど、挑戦できなくなってしまふ自分の心に打ち勝つ勇気が必要。』

以上のことから、コーチが伝えたいことは、挑戦する前から気持ちを抑えず、恐れず今はとにかく挑戦してください。